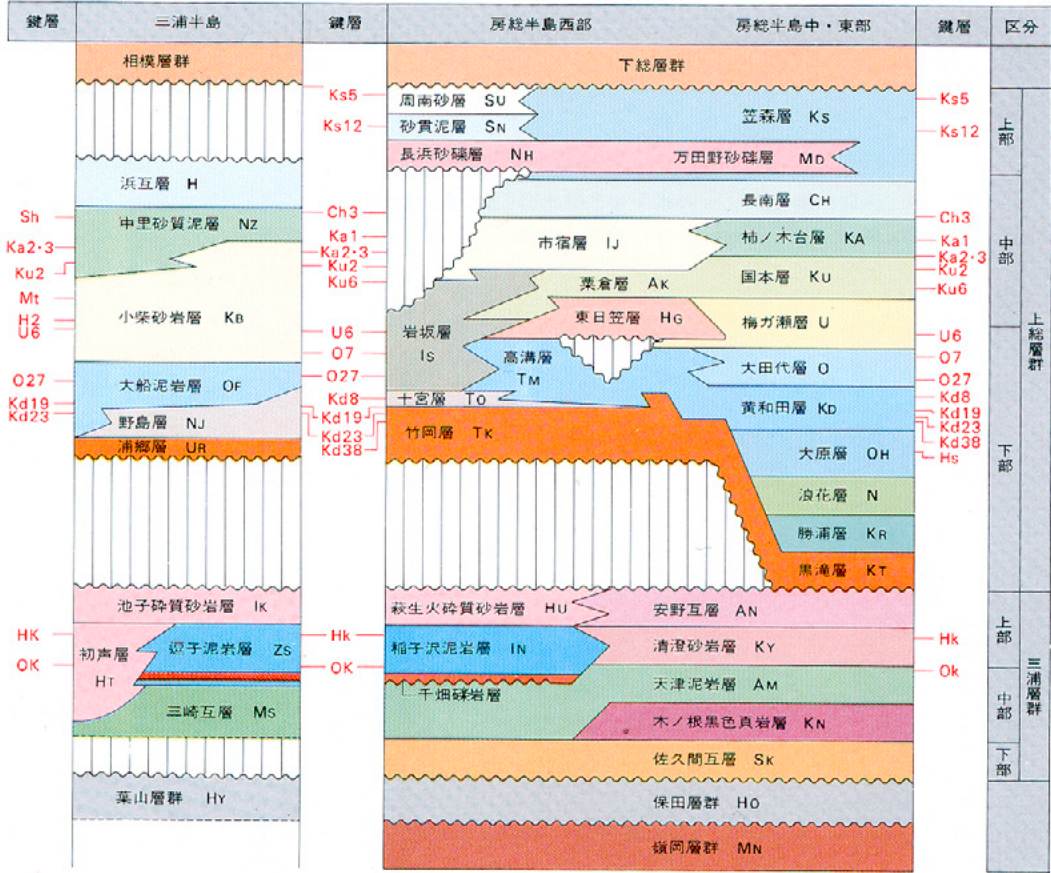


●房総・三浦半島の層相区分と対比表（図3の凡例を兼ねる）



●三浦層群（中新世中期～後期）

薬山・保田層群を不整合におおい、黒滝不整合にいたる一連の地層。
三浦半島

池子火砕質砂岩層（IK）＝おもに凝灰質砂岩からなり、泥岩を挟む。
異常堆積層（深層型海底地にり層）が発達する。層厚：約150m。

逗子泥岩層（ZS）＝新鮮な面は帯緑灰色、風化面は灰白色の泥岩からなり、うすい砂層や凝灰岩層を挟む。北部地区の本層の東西断面（逗子～久里浜）を図10Bに示す。同図で、本層基底の礫岩層は田越川礫岩層と呼ばれることもある。南部では層厚を著しく減じつつ火砕質砂岩からなる初声層に移行する。

初声凝灰質砂岩層（HT）＝スコリヤ質・軽石質の砂岩からなり、大きなクロスミナが発達するので水深200m以浅の堆積物と推定される。三崎互層（MS）＝泥岩と凝灰質砂岩および凝灰岩の互層。本層群の最下位の層厚は南岸沿いの背斜軸部で見られるが、本層下限は海底に没してみられない。分布は三浦南部地区に限られる。層厚：1,500m以上
房総半島中・東部

安野互層（AN）＝凝灰岩と泥岩の互層。東西走向で分布し房総西部で萩生層に移行。清澄背斜の南側にも薄く分布する。層厚：400～600m
清澄砂岩層（KY）＝1～5mの砂岩層と数10cmの泥岩との砂勝互層からなる。東西方向の軸をもつ清澄背斜の囲りに、南側の向斜部で厚く、北翼に薄く分布する。層厚：1,100m。（等層厚線図を図10Aに示す）

天津泥岩層（AM）＝泥岩からなり10～20cmの凝灰質砂岩層を4枚挟む小湊より西方へほぼ東西の走向で鉾山周辺まで分布する。層厚：800m
木ノ根頁岩層（KN）＝暗灰色細粒頁岩を主とし、うすい砂岩・泥岩をはさむ。天津層の下部のほか鴨川地溝帯中にも塊状に分布する。
佐久間互層（SK）＝砂岩・礫岩・泥岩の互層からなる。加茂川流域の鴨川地溝、嶺阿山南側や同山頂に分布。礫岩層には、玄武岩の溶岩を挟む。この礫岩層は嶺岡・保田層群から由来する角礫や巨礫を含み、また基盤岩との境界付近に巨礫岩層が発達し、アバット関係が実際にみられる。初生的に断層による地溝上の堆積の場が推定される。

房総半島西部
萩生火砕質砂岩層（HU）＝スコリヤ質砂岩・凝灰岩・凝灰質砂岩の互層
稲子沢泥岩層（IN）＝主として泥岩からなり、うすい砂岩や凝灰質砂岩を挟む。本層基底には礫岩層が発達し、千畑礫岩層とよばれている。この礫岩層は清澄山付近まで凝灰質砂岩層として連なる。鍵層OKに近い層厚にあり、三浦半島逗子層群基底の田越川礫岩層に対比される。

房総半島南部
千倉泥岩層（CK）＝房総中東部の稲子沢泥岩層に対比される。
西岬泥岩層（NZ）＝房総中東部の天津泥岩層に対比される。

●上総層群（鮮新世～更新世前期）

黒滝不整合にはじまり、長沼不整合にいたる一連の地層。層相・層厚変化の状態は、図4に層序断面図として示す。本層群は房総半島の中東部で最も厚い（図4では、本層群最下位の大原・浪花・勝浦の各層がより厚くなる房総東岸部の資料は記入されていない）。

三浦半島
浜互層（H）＝下部は泥岩と細砂の泥勝互層、上位になるにつれ砂勝互層になり、最上部はクロスミナが発達する中・粗粒となる。武蔵野台地地下にも広く分布する。本層中位の珪藻化石および岩相から、汀線近くの淡水性の堆積盆で、ときに海水も侵入する環境が推定される。中里砂質泥岩層（NZ）＝塊状の砂質泥岩。下位の細粒砂岩層とはバルートで層厚10m程の漸移部で整合に重なる。下浅海～半深海に堆積。小柴砂岩層（KB）＝凝灰質砂岩からなり、クロスミナが発達する。貝化石により、亜浅海～下浅海帯に堆積。寒暖両要素が混在している。大船泥岩層（OF）＝塊状の灰岩からなる中～半深海に堆積。野島凝灰質砂岩層（NJ）＝凝灰質泥質砂岩・凝灰質砂岩からなり、本層上部には局所的に深層型海底地り層や礫層が発達する。下位の浦郷層と共に房総半島の十宮層、竹岡層に対比される。浦郷凝灰角礫岩層（UR）＝凝灰質砂岩・凝灰角礫岩からなり、上総層群の基底礫岩に相当する。下位の三浦層群最上位を不整合におあう。

房総半島中・東部
笠森層（KS）＝泥質砂岩からなり、下総層群に不整合におあわれる。万田野砂礫層（MD）＝礫を含み粗～中粒砂。中・上部にはクロスミナが発達する。野見山から東方へ上下に分かれ笠森層に尖滅する。長南層（CH）＝泥岩と砂層との細かな互層。中部は砂勝五層。柿ノ木台層（KA）＝塊状の砂質泥岩からなり上部に厚い砂層が発達。国本層（KU）＝2つの砂勝互層部と2つの塊状砂質泥岩層とからなる。梅ガ瀬層（U）＝主として砂勝互層からなり、泥勝互層を挟む。鍵層U。の下位に、含細礫粗粒砂とそれに重なる異常堆積層（表層地にり型）が発達する。この基底は西部で下位層と不整合関係を示す。大田代層（O）＝3つの砂勝互層と泥勝互層とが大きな単位で互層する。黄和田層（KD）＝泥岩を主とし、うすい砂層を挟む。大原層（OH）＝泥岩と数10cm以下の砂層との互層。一部に砂勝互層浪花層（N）＝泥岩を主とし、うすい砂層および凝灰質泥岩層を挟む。勝浦層（KR）＝砂勝互層と泥勝互層とからなり異常堆積層を挟む。黒滝層（KT）＝凝灰質砂礫岩、基底部には安山岩質の礫を含む。

房総半島西部（特徴的な地層のみ記載）
東日笠砂礫層（HS）＝砂・礫を主とし、含礫泥岩や流状シルト岩（表層地にり層）を挟む。下浅海～半深海に堆積。本層のうち、房総西部の一部で部分的な不整合を呈する層位は、房総中・東部では梅ガ瀬層上半部、三浦北部では小柴層下部にいずれも整合関係にあるが、多摩丘陵地区およびその以北では、同層位は下位の上総層群下部を欠き、直接に中・古生代層を不整合におあって分布する。

図3 - 三浦半島・房総半島の地質図

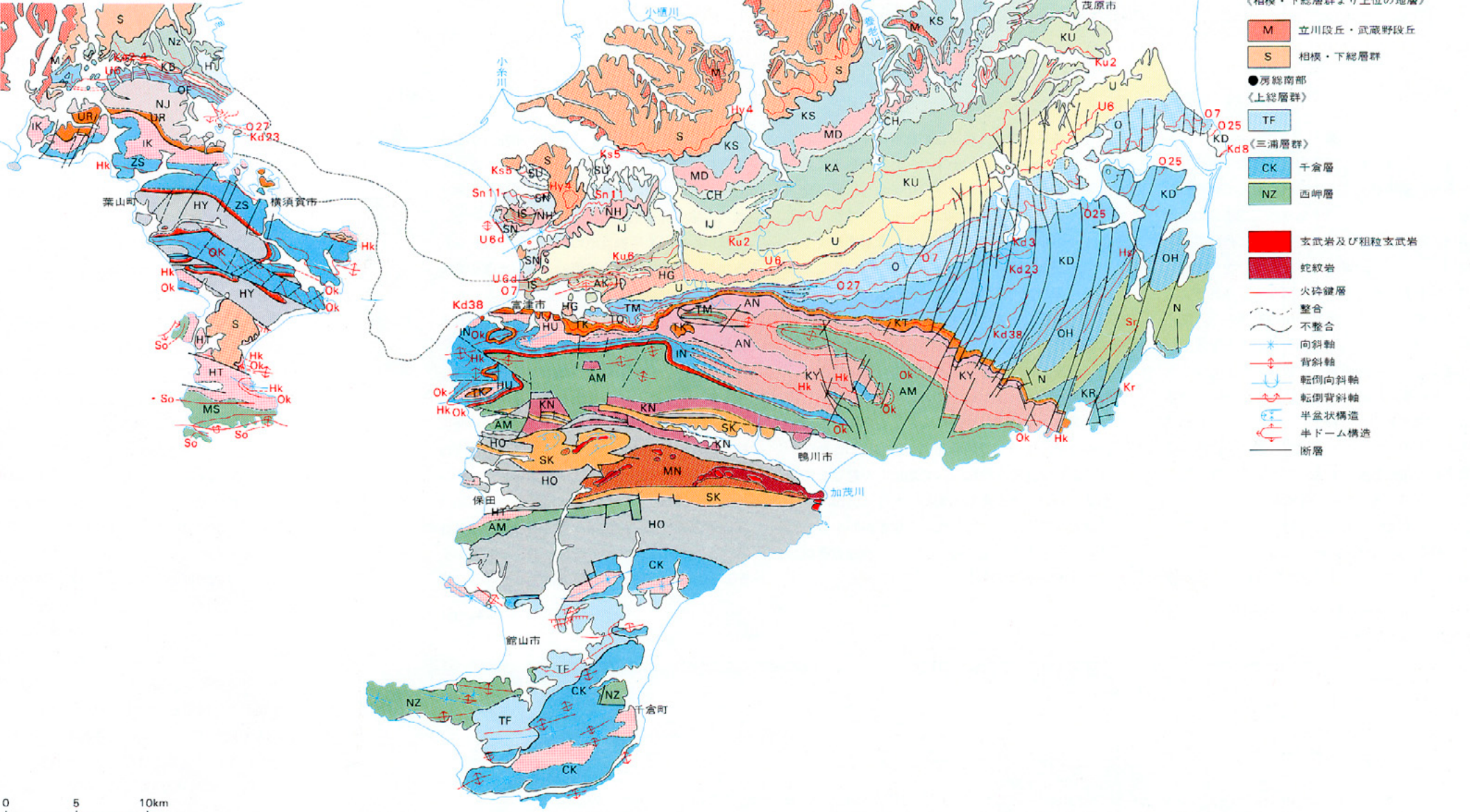


図4 - 上総層群層序断面図

